

[08\_7] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
8(7)

<https://doi.org/10.15017/13873>

---

出版情報 : 図書館情報. 8 (7), pp.43-48, 1972-07-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

## ある郷土史家の生涯をたずねて

— 江島茂逸 —

中村 譲

九州大学には、約170万冊の図書があり、わが国でも有数の蔵書数を誇っている。人文・社会・自然と、その内容も多方面にわたり、日々その蔵書数は増加の一途をたどっている。そのうちわが中央図書館の所蔵になるものは約25万冊程度で、全学的にみればさほど誇れたものではない。だがそのなかには貴重な文献も少くない。それらについては、この「図書館情報」の創刊号以来、機会あるごとに紹介されているが、まだ未紹介のものも数多い。貴重図書なるがゆえに、貴重書架のなかへ大事に納められていて、めったに人目にふれることのないそれらの文献類は、いったい如何なる状態で、永い眠りを眠っているのであろう。学生部から図書館へ勤務するようになってから、もの珍しさも手伝って、私はしばしば書庫内を歩いてみたものである。ある日、いかめしく鍵のかかった貴重書架を開いてみた。ブンと匂ってくる古文書独特の黴臭い匂い。私は急に自分がひとかどの学者になったようなつもりで、その中の1冊々々を手にとってみた。なるほど、貴重図書として別置されるだけあって、いろいろな珍しいものがある。そのなかに、昭和4年9月、江島茂雄氏から寄贈された江島茂逸氏の草稿本が12点あった。その1冊、「筑前一揆竹槍実記」なるものを、興をそそられるままに読みあげた。いまから99年前に、当地で発生した有名な一揆に関する克明な記録である。小説の素材にもしばしば取り上げられている事件だが、その実録ともなると、また違った感興をそそられるものがある。そのほか江島氏から当館へ寄贈された図書は、郷土史に関するものだけでも数百冊にのぼるといふ。それだけの郷土資料を丹念に蒐集された江島茂逸という方は、どんな人物であろう。人気のない深閑とした書庫の中で、私はふと心引かれるものを覚えた。古くから図書館に在職している者にたずねても、誰も知らない。なにしろ寄贈のあった昭和4年に、中央図書館に在職していた者など、もはや当館には1人もいないのだ。調べようにも、なんの記録もない。わからないとなると、私は無性にその人物について知りたくなった。「ある郷土史家の生涯をたずねて」ふと私の頭に湧いてくるのは、そのような表題めいた言葉であった。

郷土史家と謂われる人は、現在でも福岡市には少くない。あちこちそれらの人たちをたずね歩いてみた。かなり有名な方だったとみえて、茂逸翁の名を知っている人は多いのだが、その略伝や家族の消息ともなると、誰も知らない。なかば諦めかけていたところ、たまたま県庁の県史編纂室に勤めておられる波多江一俊氏を知り、同氏の紹介で、郷土史研究家の1人である中間市の松崎武俊氏なら、江島さんのことを知っておられるのではないかとの朗報を得た。ようやくその松崎氏から、江島保雄氏という子孫の方が、福岡市東区の香椎町に住んでおられることを教えてもらった。さっそく私は、その方を訪ねてみた。

九州大学農学部正門前の、鹿児島本線を越えたところの墓地に、茂逸翁の墓碑があるという。まさに、燈台下暗し、私が現在任んでいるところから、わずか50米とは離れていないところに、その墓地がある。このことを、漢学に造詣の深い宮松公民館長柴田<sup>ひろし</sup>氏に伝えたところ、最終的に同氏が墓の在処を捜し当てられ、墓碑銘を刻明に筆写され、そのうえ訳文までつけてくださったので、これを紹介し、併せてその労に謝したいと思う。

## 江島茂逸翁墓誌銘(訳文)

君ガ姓ハ江島、名ハ茂逸。父ハ川庄定剛、母ハ江島氏。天保13年壬寅12月ヲ以テ、福岡県早良郡西新町ニ生ル。祖父ノ家ヲ襲ギテ江島氏ヲ称シ、福岡藩ノ卒属ニ列ス。幼ニシテ英敏、学ヲ好ミ文ヲ嗜ミ、経史ヲ涉獵ス。長ズルニ及ビ、王余姚ノ学ヲ咀嚼シ、造詣最モ深シ。大イニ致良知、知行合一ノ教義ヲ講述シ、以テ後進ヲ指導ス。人ト為リ耿介ニシテ群セズ、大志ヲ抱キ、超然トシテ名利

ノ外ニ屹立シ、末節ニ拘拘セズ、毀譽褒貶ハ他評ニ任ス。世称シテ以テ畸人ト為ス。而モ勤儉義ヲ好ミ、カヲ公共ノ事ニ尽ス。其ノ藩ニ在ルヤ、勤勉清直ニシテ令名アリ。或ハ郡史ト為リテ、学務ヲ督シ、誘掖指導ノ功績渺ナカラズ。或ハ国立銀行ノ創業ニ参画シ、或ハ商業會議所ノ創立ニ参与シ、其ノ事務ヲ執掌ス。拮据励精、数年一日ノ如シ。又、夙ニ博多港ノ衰廢ヲ嘆キ、日清貿易ノ隆興ヲ謀ラント欲スルヤ久シ。大イニカヲ此ニ尽シ、頻リニ其ノ経綸ヲ策シ、日清貿易研究生派遣ノ急務ヲ首唱シ、百方奔走シテ、勸説大イニ努メ、終ニ実行セラルルニ至レリ。常時派遣ノ俊才青年ハ、君ノ簡拔推奨ニ由ル者渺カラズ。各器ヲ成シ、名ヲ揚グルニ至ル。後感ズル所アリ。家居ヲ韜晦シ、復タ世務ヲ事トセズ。静座シテ禅学ヲ修メ、得ル所有リ。自ラ青邱庵如煙宗豫居士ト号シ、常ニ青邱漁夫ト称ス。善ヲ樂シミ徳ヲ積ミ、筆硯追随シ、古人ヲ尚友シテ、暢然トシテ自得シ、専ラ史乘ノ編纂ニ従事シ、日夜孜孜トシテ、研鑽討究シ、歴史ヲ審ニシ、事蹟ヲ明カニス。編著堆積シテ数十余種ニ上リ、大イニ修史ノ参考ニ資シ、後進ノ研学ニ裨益ス。其ノ功績屢指ニ違アラズ。其ノ間、黒田侯爵家ニ聘セラレ、修史ノ業ニ従事シ、又、カヲ福岡藩狗難志士ノ事蹟ニ用イ、其ノ著多ク世ニ伝ハル、玉碎光存編、太宰府記念編、太宰府史鑑、岩屋史談、高杉東行入筑始末、及ビ、高橋屋正助、中村円太、野村望東、加藤司書、平田大江父子、喜多岡勇平、攀成老公、黒田一葦老ノ各伝記、有栖川宮御入藩記、明治六年筑前竹槍記、日子山義僧伝等ハ其ノ較著ナルモノニシテ、維新修史ノ参考ニ資スルトコロ、又渺カラズ、夫ノ博多繁栄策ノ若キハ、則チ、君ノ大イニカヲ致ス所ニシテ、商家ヲ奨励シ、後進ヲ誘掖シ、至ラザル所難シ。其ノ著博多三傑伝、神湊緑(緑の誤り)藤波等、徴古励今ノ意頗ル深く、亦以テ君ノ熱心ヲ見ルニ足ルナリ。明治四十五年七月十五日、病ヲ以テ逝ク。曷ゾ追惜ニ堪エン。享年七十一。君櫛橋氏ヲ娶ル。長男廉太郎、長女元枝共ニ健在ナリ。嗚呼、君ノ一世ノ閱歴概ネ斯ノ如シ。其ノ多大ノ功績ハ、焉ゾ埋没ニ委スベケンヤ。今茲ニ友朋及ビ門下生等胥イ謀リテ、君ノ墓碣ヲ建ツ。予ノ君ニ於ケル親交数十年ヲ重ヌ。其ノ間、君ノ修史編纂ノ業ヲ援助シ、又、其ノ著編ヲ発表スル等、友誼殊ニ深シ。君生前、予ニ託スルニ死後ノ建碑撰文ノ事ヲ以テス。是ニ於テカ、君ノ平生ノ一斑ヲ叙シ、係グルニ銘ヲ以テス、銘ニ曰ク。

志在鴻鵠 行脱風俗 修史博碩 持心清直 業存歴録 功伝銘刻 玄海水碧 龜山長緑  
大正二年七月 大熊淺次郎 撰  
興膳 駉郎 書

(註) 墓誌銘訳文中——を引いてある著書で博多三傑伝の外は、中央図書館の所蔵である。  
なお、博多三傑伝は、文学部が所蔵している。

(なかむら・ゆずる：中央図書館事務部長)

## お知らせ

### 国立学校図書館専門職員採用試験

昭和38年度から実施されてきた国立学校図書専門職員採用上級・中級試験が、本年度から一部改正されることになった。上級の甲種は廃止、上級乙種と中級はそれぞれ国家公務員採用上級乙種試験および中級試験の中の一区分「図書館学」として行なわれる。試験の概要は次の通りである。

国家公務員採用上級乙種試験—(1) 受験資格(昭和18年4月2日～26年4月1日。男女、学歴を問わず)(2) 受付期間—5月8日(月)～5月16日(火)(3) 試験日—第1次(6月18日) 国家公務員採用中級試験—(1) 受験資格(昭和20年4月2日～28年4月1日)(2) 受付期間—7月24日(月)～8月3日(木)(3) 試験日—第1次(9月17日) 第2次(人物試験) 11月中旬～12月上旬

試験	種目	内容
第1次試験	教養試験 (多岐選択式)	公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験
	専門試験 (多岐選択式)	専門的知識についての筆記試験で出題分野は次のとおり。 図書館学概論、図書館資料論(資料利用法を含む)、資料組織論、図書館管理。
第2次試験	専門試験 (記述式)	多岐選択式と同じ出題分野からおもに基礎的なものが出題されます。
	人物試験	人柄などについての個別面接(性格検査を含む)
	人物調査	人柄、性格などについての調査

受験手続は、人事院各地方事務局、人事院沖縄事務局。

## 第1回漢籍担当職員講習会に参加して

豊原 怜子

文部省と京大人文学研究所附属東洋文献学センター共催の講習会が5月29日より1週間、京大及び人文研で行われた。日程は次の通りであった。

〔第1日〕漢籍について(吉川幸次郎), 目録学概説(倉田淳之助)〔第2日〕東洋学文献センターの現状と将来(尾上兼英・日比野丈夫), 史部書I(川勝義雄)〔第3日〕子部書(福永光司), 史部書II(日比野丈夫)〔第4日〕経部書(平岡武夫), 陽明文庫見学(名和修)〔第5日〕朝鮮本について(田川孝三), 集部・叢書・新学部(市原亨吉)〔第6日〕討議・情報交換・会食, 内容は講義と実習であった。

逐一的な報告を避けて全体をいくつかに分けて簡単な報告をさせて頂く。

### (I) 漢籍とは何か

中国人によって中国語で書かれた書物であり, 民国以前のもので, 民国以降を新学と称しているが, 新旧の間の線の引き方がむつかしく民国人の手になったものでも旧学の方法で書かれたら漢籍とみなすとのこと。この漢籍に日本で力を入れるのはなぜかという点, 日本における外国書の白眉だからである。漢籍が入ってきた歴史は古く, 古事記によると応神紀に論語が入ったとあり, 奈良平安は仏教に関して, その後, 遣唐使, 江戸の権力者等々により貴重で豊かな蒐集がなされた。それらは例えば大東急文庫, 金沢文庫, 足利学校遺跡図書館, 蓬左文庫等々に収められ, また, 明治から終戦までの熱心な蒐集が京大の人文研をはじめ各大学の今日の蔵書をなしている。しかし中華人民共和国になって漢籍の輸出を禁止したため, もう線装本は絶対入手できないから, とにかく漢籍は大切に保存しなければいけない。

### (II) 四部分類とは

漢籍の整理に当たって, 京大人文研の目録も, 近々刊行される東方文化研の目録もまた, 京大, 東大, 北大, 東北大等の分類も, 四部分類に拠って行われている。なぜ四部分類をとるのか, それはこの分類が二千年の伝統を持ち続けているからである。つまり漢代に劉向・劉歆父子の校讐の結果, 「七略」ができた。これは学問の分類であると同時に図書分類であり, そしてそれは価値序列を含むものであった。これを踏まえて班固(A D32-92)の漢書芸文志が, そして隋志に至って経史子集の四部が確立した。清朝の四庫全書提要はその集大成である。七略から四部分類に至るまでの二千年, 若干の変化はあってもその根底は変らなかったものであり, 書く人もどの部に入れるかを想定して書いたのである。それゆえこれに基づくのが結局一番利用し易いのである。

### (III) 四部分類の内容について

四部分類はどんな内容か。中国では常に思想が中心であるため, 中国の根本理念を貫くものとしての経部を第一に, 次に, 国家の歴史を記す史部を, そして子部, 集部の序列になっている。一朝にして分類の全体を把握することは素人のなしうることではなかった。

簡単に各部について触れておく。

経部—道理の記録である。孔子を中心とする儒家の手になる經典及び, その大量の注釈書で, それは易類, 書類, 礼類など10に大別される。経部の学部のカテゴリーには注疏, 音義, 考証, 校勘, 書誌学等もある。

史部—事実の記録。王朝の歴史叙述や, 王や, 諸侯の事跡を記した紀伝体の正史類を筆頭に, 編年類, 紀事本末類, 詔令奏議類, 地理類, 金石類等17に大別される。歴史叙述の他に歴史学の資料と考えられる書が含まれるのである。

子部—思考の記録。つまり儒家, 道家, 法家などの哲学の思考, 農事, 医学, 天文, 兵法等技術に関する思考のほか, 歴史学の資料に入らない人事の記録(隨筆・怪談など)で儒家類, 兵家類等14に大別される。

集部—純粋な文学と考えてよい。屈原以下の作品をまとめた楚辞類を第一に, 個人の作品集である別集類, 2人以上の作品集の総集類, 詩文評類など6に分けられる。その他叢書部—2つ以上の分類にわたるもので6に分けられる。新学部—民国以降のもの, がある。各部についての先生方の講

義の内容は残念ながら省かせて頂く。

#### (IV) 目録カード作成

各部の講義の後、その分類に属する書物で目録カードを作成させられた。必ず中身を自分で確かめること。景印本の書名など丸うつししてはいけない。また、原則として旧漢字を用いる等の注意。まず書名を記入する。必ず第一巻の第一頁よりとる。そこがないとき、目次、巻尾、封面(表紙裏)版心を探す。次に巻数を記入する。巻首や巻末にまとまった分量の記事があれば首一巻、末一巻と付け加える。補遺、校記もその名称と巻数をかく。次に、撰者をかく。王朝名と姓と名(諱)をかく。先奏以前は古典として著者名記入しない。合同著述の場合、執筆部分が明らかだと姓名を連記する。個人の著述は撰とし、他人の本を編輯したのは輯を使う。地志カードは、地方の代表者(知事や大臣)を修とし、実際の編纂者を纂とする。次は鈔刻(出版事項)だが、何時(中国の年号)どこの誰が何処で刊行したどんな種類の本かを書く。例〔嘉慶二十四年海虞張氏愛日精廬活字印本〕。しかし何処の人とか、どこで刊行とかは不明が多いとのこと。鈔刻の種類は木版本を刊本とし、写本は鈔本、木活字本は活字印本、鉛印本(活字印刷)は排印本とする。覆刻の場合は、木板の覆刻は重刊本。景印(写真版複製本)は用\_\_刊本(抄本)景印とする。\_\_に底本を入れる。以上は簡単なルールにすぎない。もっと細かく多くの細則がある。1冊、1冊対面する毎にちがった様相なので四苦八苦。刊年を探すにも、王朝を知るにも、序跋が読めねば殆んど完全なカードは作れないのである。また、各時代のすなわち、宋版、元版、明版等の刊本の特徴についてもおしえて頂いたが、数多く触れていくことが大切だろう。

半日、陽明文庫(近衛家蒐集)に見学に行き、宋版の新編方輿勝覽を始め約50点の美しい書物を見せて頂いた。また、他日、朝鮮本(朝鮮人の著述のみでなく、中国の書物を印刷したものをいう)の歴史と特徴について講義を聞き、特に13世紀に鑄字印刷が行われ、その発達の特徴となっているため、庚子字(1431)の前漢書他20点の展示を見せて頂いたが詳述は避ける。

(V) 最後に、この講習会を催して下さった東洋学文献センターの活動にふれておきたい。

昭和40年に東大の東方文化研究所と京大の人文科学研究所の附属として、人文系において唯一のセンターができた、東洋学が日本で一番進んでいる部門であるからで、京都は、網羅的な蒐集をなし、欠けていた明時代は、写真版で千数百種の明代文集を揃えている。東京は特殊な蒐集がある。東京は42年からセンター叢刊を出し、京都は東洋学文献類目を刊行している。

今後の方針として、

- 1) 国内の漢籍の所有状況の調査
- 2) 海外にある文献資料の情報を掴み提供する。
- 3) 所在状況の情報を一カ所に蒐め、中央センターとして専門家の高度の参考業務をする。
- 4) 各図書館との協力関係を続け、図書館職員の能力の向上、整理に協力してゆく。

この講習会は専門の先生方が骨身を惜しまず当って下さった充実した講習会だった。講義の時間も実習の時間も足りなかったのは残念だった。だが、おかげで、おぼろげながら漢籍の大系を感知できたことは嬉しかった。と同時に、九大に文学部7千点、法学部2千点、図書館1千点、教養部4千点、未整理として医学部5千点、理学部1千5百点と多量に蔵しながら、それに対する図書館職員の関心と能力は薄すぎるのではないかと思った。

(とよはら・れいこ：文学部図書掛)

#### — 本学教官著作寄贈図書 —

黒岩 義五郎(医学部・附属脳神経病研究施設)

神経学の基礎 (Ernest Gardner 著 黒岩義五郎監訳 田平 武・山下 順章 共訳)

昭47 医歯薬出版 ¥4,000

## レファレンス・コーナー

(その17)

—中央図書館情報資料掛—

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろいろな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

**質問1** Hantzsche, W.: Math. Mech. 23, 1943.  
この参考文献を読みたいので、正確な書誌事項を教えてください。

**回答例** I. B. Z. Abt. A (010 I 14) Vol. 94. によって、求める論文の掲載雑誌名は、Zeitschrift für angewandte Mathematik und Mechanik. Vol. 23 (1943), p. 185-199. 九大では、理学部および工学部の造船・航空・材料強弱学科が所蔵。

**質問2** 国際連合の機構。

**回答例** 世界各国総事典(020-78)に詳しい。機構図とともに、各機関の目的・機能が説明されている。

**質問3** Johns Hopkins University の教授クラスに James S. Myer という人物が在籍しているか。在籍していれば、その所属学部、専門および地位などを知りたい。

**回答例** The Johns Hopkins University circular: Undergraduate programs 1969-70.

(海外大学カタログコーナー)で調査。

James S. Myer は Johns Hopkins University の Faculty of Arts and Sciences の Associate Professor で、専門は心理学である。

**質問4** 騒音防止に関して、音響制限の基準を知りたい。たとえば、学校内で施設の工事を行う場合、どの程度の音響まで許されるのか。

**回答例** 公害白書・昭和45年版(福岡県公害課)(270-17)で調査。騒音防止条例・第5条によって、一定の基準が規制されている。なお、音響機器の音量の一般基準表もある。

**質問5** ネパールから、研究用の土壌を持ってきたいのだが、その手続きは。

**回答例** 調査資料がないので、門司植物防疫所福岡出張所(電・29-2054)に問い合わせる。土壌の輸入は防疫のため原則として禁じられているが、学術研究の場合にのみ許される。農林大臣あてに特別許可申請(文書形式あり)を提出し、許可されると証票が発行され、それを現物に添付して持ち帰る。

**質問6** ソ連のモスクワ大学とレニングラード大学の正式名称と住所。なお本学の文学部に相当する学部名、または文学部に関連のある学部名。

**回答例** World of learning 1970-71 (060, W88, 19 69/70) で調査。(大学の正式名称と住所は略す)前者で文学部と関係のある学部は、Faculty of History, Faculty of Philology, Faculty of Philosophy, Faculty of Journalism, Faculty of Psychology, Institute of Oriental Languages. 後者は、Faculty of History, Faculty of Philology, Faculty of Philosophy, Faculty of Oriental Studies, Faculty of Psychology, Faculty of Journalism.

**質問7** わが国の公共企業体について。

**回答例** 「国の刊行物・解説目録」(027.2, K049, 1)で調査。日本専売公社・日本国有鉄道・日本電信電話公社の三社があり、その組織が詳しく述べてある。なおそこから出されている出版物の解説もしてあって詳しい。

**質問8** reprint と facsimile edition の違いについて。

**回答例** 出版事典(023.1, Sh, 99) 対訳書籍用語辞典(524タ3)および学術用語集(図書館学編)(020カ5)で調査。reprint は、既刊の出版物を、同一の紙型、原版によって再版したもの。facsimile edition は影印版、つまり古文書などを写直製版によって原本同様に複製したもの。

**質問9** 国家的慶祝などで、提燈行列の行われることがあるが、わが国における最初の行事はいつか。

**回答例** 明治事物起源事典(020メ4)で調査。明治6年(1873)神田一ツ橋にあった開成学校(南校)と下谷和泉町の医学校(東校)が2つの大学であった頃、東校の教頭ミルレルの誕生日に際して、東校の者が各自1尺四方の万燈を持って、和泉町より上野まで、4列縦隊で行進し、四軒寺にあったミルレルの宿舎に行って祝った。

## ◆ 研 修

## 昭和47年度大学図書館専門職員長期研修の開催

昭和47年7月25日(火)から8月19日(土)まで、文部省および図書館短期大学の共催で、「図書館業務の合理化、標準化および機械化」ならびに「二次資料と参考業務」を主とする長期研修が実施される。研修資格は、大学図書館において、図書館職員として専門的業務を10年以上(大学卒業者にあっては5年以上)の経験を有し、概ね40才以下で、大学長が推せんする者となっている。定員は、a. 人文・社会系分野を専門とする図書館職員(10名) b. 理工系(数物系・化学系等)図書館職員(10名) c. 生物系(医学・薬学・農学等)図書館職員(10名)。会場は、国立中央青年の家(静岡県御殿場市)と図書館短期大学等。

## 〈研 修 科 目〉

## 1. 序 論

- (1) 大学図書館専門職員のあり方
- (2) 近代的大学図書館の使命

## 2. 大学図書館管理運営論

- (1) 大学図書館の組織機構と管理運営
- (2) 大学図書館行政
- (3) 大学図書館と人事管理
- (4) 大学図書館と会計事務

## 3. 資 料 論

- (1) 資料選択論
- (2) 人文科学資料
- (3) 社会科学資料
- (4) 自然科学資料
- (5) 文献情報活動のための資料論
- (6) 二次資料の世界的動向

## 4. 図書館業務の機械化

- (1) 図書館業務機械化のためのシステム設計
- (2) 業務のシステムアナリシスと機械化の実際

## 5. AA目録規則

## 6. 参考図書(レファレンスツール)の構成と利用

- (1) 人文・社会
- (2) 理工系
- (3) 生物系

## 7. 見学等(共同研究討議・慶応義塾大学医学情報センター・国立国会図書館等)

なお、本学からは医学分館閲覧掛長 福永寿夫、産業労働研究所図書掛長 久保昭夫の2名が参加したので、大いにその成果が期待されている。

## 学内マイク

## 九州学園福岡女子短期大学学生の実習

— 中央図書館 —

上記学生5名が、7月10日(月)から22日(土)までの12日間、中央図書館において、実習研修を行なった。

日 録	47. 6. 21~7. 20	7. 10~	九州学園福岡女子短期大学司書コース学生 22 5名, 図書館業務実習のため来館
6. 23	図書館事務改善委員会	7. 19	法務省大臣官房司法法制調査部 白旗正, 金森邦明事務官来館
7.6~7	富士フィルムマイクロセミナー参考掛 朝倉掛長, 野上掛員受講		